

さぬき市在宅医療・介護連携推進協議会平成29年度第1回会議 会議要旨（要約）

- 1 日 時 平成29年9月12日（火） 18:30～20:20
- 2 場 所 さぬき市福祉事務所 2階201・202会議室
- 3 出席者 [委 員] 十河章・為国真理・占部日出明・大河原洋子・防越一美・穴田美知子・矢野勝久・南 篤・神前政季・大河原さとみ・高嶋伸子・山本孝広
[事務局] 東直行・川田涼子・國方秀樹・山下昌美
[傍 聴] なし
- 4 議 題 (1) 在宅医療・介護連携推進事業の概要について
(2) 在宅医療・介護連携推進のための会議体制の整備について
(3) 平成28年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について
(4) 平成29年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について

5 会議の内容は次のとおりである。

発言者	意見概要
(事務局)	<p>ただいまから、平成29年度第1回さぬき市在宅医療・介護連携推進協議会の会議を開会します。本協議会は、地域の医療・介護関係者等に参画いただき、在宅医療・介護連携の課題の対応策について検討いただくことを目的として設置したものです。</p> <p>本協議会の会議の開催回数は、本年度は本日と来年2月くらいを予定し進めさせていただきたいと考えています。これからの議事の中では、皆様の御意見をいただきながら進めたいと思います。</p>
(会長)	<p>(会長挨拶)</p> <p>自己紹介をお願いします。</p>
(事務局)	<p>本協議会の設置要綱により、会長が会議の議長をすることとなっていますので、以降の議事については十河会長をお願いします。</p>
(議長)	<p>(議題)</p> <p>議題について、事務局からの説明を進めてください。</p>
(事務局)	<p>(事務局説明 議題の「(1)在宅医療・介護連携推進事業の概要について」「(2)在宅医療・介護連携推進のための会議体制の整備について」「(3)平成28年度在宅医療・介護連携推進事業の事業報告について」)</p>
(議長)	<p>説明を受けて質問はありますか。</p> <p>日経出版センターからリンダ・グラットン著『ライフシフト』『ワーク・シフト』という本が出版されており、すごく売れている。我々は60歳くらいで人生が終わる時代だったのが、100歳まで生きる時代に入ったため、すべての生き方が変わってきているという内容。今の事務局の報告を聞いていて、通ずるものがあると感じたので紹介する。『ライフシフト』は定年後でも30年以上生きる時代に入り、第二の人生として老後を介護の世話にならないように目標を組み立てないと、社会的は費用もかかってくるので、社会参加のあり方を大きく変えないといけないという大きな問題提起をしている。先進国における問題がよく分かり参考になる。</p>
(副会長)	<p>問題点として出された①高齢者本人の状況が分かる人が身近にいない②高齢者のちょっとした支援を手伝ってくれる人がいない、について、それに対応して第一層では生活支援コーディネーターを中心に協議体を設置し、さらに第二層を設置するということになっています。第二層は身近な</p>

	<p>ところで生活支援できるように各地区でやっていこうという話ですが、地域で温度差があるということと、出来るところからという話だったが、市内には何地区あって出来そうなところはどれくらいあり、何をもって出来そうなのかを教えて欲しい。</p>
(事務局)	<p>小学校の統合・廃校している地域では危機感を持っています。元気な高齢者が中心になって会議や行事を行っていたし、反対に危機感や認識もない地域もあり温度差があります。先進地としては、大川地区の田面自治会や多和地区では独自の運営をしています。寒川地区では婦人会を中心に動きもあります。それをうまく活用し、モデル的なものになればと思っています。</p>
(議長)	<p>善意の偶然性が高いのだろう。例えば主婦や郵便局員や配達員がたまたま発見するなどコンビニの店員と協力して何かを発見したり、子どもたちが何か発見するなどの偶然の要素も強い。それを老人自身が積極的に自分の人生を構築し、社会参加すること（例えば農業を共同ですることや、人を巻き込んですることで）で、楽しく元気にもなる。</p>
(委員)	<p>協議体のコーディネーターの養成には、非常に時間がかかると思う。今たちまち問題が起こっているものを、第一層の老人クラブや自治会などの組織の人の役割の中で、コーディネーターの役割が出来ないのかと思う。</p> <p>グループワークのまとめの中で、「内服管理が出来ない」と問題視しているグループが10グループあったが、これもコーディネーターを時間をかけて養成すると解決していくことなのかどうなのかお聞かせ願いたい。</p>
(事務局)	<p>協議体のコーディネーターは、既存の地域団体や既に活動している人に参加していただき早期に協議体の設置、コーディネーターの配置を図りたい。</p> <p>内服管理の問題がコーディネーターの配置で解決するのかということに関しては、生活支援体制の整備は事務局として一つの方向性なので、各委員から課題の対応策についてのご意見があれば頂きたいと思う。</p>
(副会長)	<p>国がいう生活支援コーディネーターは、養成するのではなくしかるべき人を任命し置くということ。その中で、コーディネーターの力量が形成されていくことはあるが、「養成」ではなく「配置する」。「有識者」を配置するのではなく、その市や社協で“こんな人”という人を決めていく。コーディネーターになった人の学習会が必要かもしれない。コーディネーターは起こっている問題を、みんなの力を引き出して解決できるようにしていく人。第二層はもっと身近なところでコーディネートしていく。市や社協でそういう人をどんどん配置していく。</p> <p>服薬管理についてコーディネーターがやっていくのかについては、その</p>

<p>(事務局)</p>	<p>問題は誰がどのようにすればいいのかをこれから考えないといけない。服薬は医師や薬剤師、看護師などいろいろな連携が生じてくるので、それが③の問題にも繋がってくると思う。さぬき市では社協が資源を一番把握していると聞いているので、社協を中心に第二層を推進していくと思っている。</p> <p>今回の問題の整理では、国が「生活支援体制の支援の構築」が非常に重要とっていることが、各専門職で話し合いをした時に、まずそのことがあがってきたので、国のいうことと地域の問題がピッタリ合ってきたと思う。それをどう解決していくかはここからの問題と思います。</p> <p>具体的には、買い物に行きたいが行けない場合、近所の人を買ってきてくれるのも助け合い、誰かが音頭をとってまとめて買って来てくれるのも方法。しかし街中でそんなことをすることはないと思う。地域によっては有志の方が健康体操を週1回集まっていり、地域で必要と思うことや自分たちに出来ることをコーディネートしていくこと。地域でのリーダー的存在を見つけ、次につなげていくかが大きな課題です。今も、元気な65歳以上の人が活動していても、「自分たちが年をとり動けなくなった時に次を継いでくれる人を作りたい」という声もある。</p> <p>服薬については、地域の中で寄り合いの時にでも声かけをすることも素人でも出来る考えと思う。大それたことでなく、高齢者が困っていることを身近で助けてあげる、補助できるような仕組みづくりが出来ればいかなと思うが、まだ地域でどういうものをどういう人に担ってもらえるかがはっきり出せないのが、第一層で勧めていきたい。地域で出来る人が出来ることを周りの人のためにしてあげる体制づくりが出来ればと思っている。</p>
<p>(委員)</p>	<p>非常に理想的な立ち上げと思うが、下から立ち上げるのは地域でのエゴが出やすい。市としては無料で出来るというメリットはあると思うが、私はそういう理想論は、日本人にはまだまだ少ない精神と思う。あるリーダーが住民を縛っていく悪い方向に行くようになるのではないかという悪い見方をする。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>さぬき市は東かがわ市で行っている“見守り隊”“パトロール隊”はないのか？配達員・警察等や薬剤師会も独居者の情報を把握し、気になる家庭は社協に報告するようになってきている。今までなら自治会や民生委員に報告していたが、直接市に連絡するようになってきている。</p> <p>正式なもの把握できていないが、社協でネットワークを組んでいて、四国新聞社やガス、民生委員など定期的に訪問している人たちが、異常があれば連絡を受けている状況。連絡が民生委員に入る場合や、社協・包括</p>

	<p>に入る場合がある。県主体でセブン・イレブンと契約し、高齢者に何かあれば包括に連絡が入るようになっている。</p>
(事務局)	<p>ケアマネ等連絡会で、市社協が見守り隊の活動の推進をしている発表があった。全地区で出来ていないのでそれを推進している。</p>
(議長)	<p>実態は、その都度問題があり発見すると、いろんな多様性があると思う。</p> <p>(4) 事業計画について説明してください。</p>
(事務局)	<p>(事務局説明 議題「(4) 平成29年度在宅医療・介護連携推進事業の事業計画について」)</p>
(委員)	<p>市の高齢者の生活様式を市で把握できていますか？生活保護世帯や独居、独居のうち親と子どもの2人暮らしなど、問題が起こりそうな家庭を把握をしているか。高齢独居は何か問題が起こるかもしれないし、高齢の親と独身男性の生活では、子どもが働き帰りが遅いと何か起こるかもしれない。地域の連絡は以前は自治会がしていたが、今は自治会が機能できていないので、市で地区ごとに把握できていれば、コーディネーターも把握しやすい。人口の流れは分かるので、危険度の増す人がどこに多いかが分かりやすくなるので、重点を置くところも分かりやすくなると思う。把握していますか。</p>
(事務局)	<p>生活保護対象者は市福祉総務課が担当している。しかし、生活保護にならないギリギリの人へのサポートはないが、田舎の場合は民生委員や自治会長からある程度の情報を頂くこともある。街中は近所の人々の状況は分からない。8050問題で親の年金で生活し、親が亡くなると急に問題が浮上ってくる状況であり、通常の生活をしている時は状況把握できないのが現状。地域の民生委員が情報を得る努力をしており、ネットワークを増やし、情報をどこかに繋げていかないといけないと思っているが、今言われた「この人は今この段階にある」ということは分からないのが現状です。</p>
(委員)	<p>生活支援体制整備を計画するのであれば、その情報は持っておいたほうがいい。</p>
(事務局)	<p>災害時の支援が必要な人の要援護者台帳はあるが、日常生活におけるランク的なものは日々変化し、そういうものがどこまで管理できるかは大きな問題。どこかで困った人について情報を得て、後おいで対応している。</p>
(委員)	<p>コーディネーターの大事なことは、まずは情報収集が大事と思う。情報がないと次の手が打てないと思う。</p>

<p>(議 長)</p>	<p>他に意見はないか。</p> <p>「1 在宅医療・介護連携に関する相談支援（事業項目のオ）について」は、今後の医師会の理事会で諮ろうと思う。</p> <p>「2 医療・介護関係者の研修（事業項目のカ）について」です。次回の研修会では、グループワークのグループ分けでは事務局案の複数の職種で構成する案でよろしいか。</p> <p>（意見なし）</p> <p>複数の職種で行うこととします。</p> <p>その他として、他に言いたいことはありますか。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>少しずれますが、喀痰吸引の講習会の開催が少なすぎる。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>香川県看護協会が年1回、民間が数回行っている。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>民間が行う場合は、1人の受講料7～8万円が高いため、市が研修会をしてくれないか。介護職員が講習会を受けると、喀痰吸引をすることが出来るようになる。施設職員が喀痰吸引を出来ると必要な人の受入れができるようになる。各施設は介護職員を余裕をもって雇っていないので、2日間の研修に出すことも出来にくいだらう。年間3～4回実施し、1年間のうちに2回行けば認定が取れるというような形にしてもらえると、職員が行きやすくなると思う。市のほうで段取りしてくれるといい。</p>
<p>(議 長)</p>	<p>喀痰の吸引は医療行為のため、看護師の少ない施設では対応しにくいので、介護職にも研修を受けてもらい実施できるようになっている。研修機関と指導者を指定し、そこで2日間の研修を受講できたものに認定証が発行できる。事故の問題もあるので2日間の研修をしている。資格の認定や、施設の許可等はどうなるのか教えて欲しい。</p>
<p>(委 員)</p>	<p>養成者が受講を受し、日本看護協会から各都道府県の看護協会ですべて受講できるようにしている。今は訪問看護の財団や民間の財団が請け負って養成している機関もある。値段は高い状況。定員は30人程度。実地指導があるので人数制限があると思う。</p>
<p>(議 長)</p>	<p>実施しようとするれば、指導者が研修を受け、有資格者になりどこかで指導するという人材の問題、実習できる患者の確保の問題があるだろう。さぬき市民病院等の大きな病院では行おうとしても施設長の考えにもよるだろう。しかし、技術者を増やすことは必要と思う。今日のようなところが関わりで出来ればありがたいと思う。</p>
<p>(議 長)</p>	<p>研修会の日程については事務局に一任する。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>日程は年内に出来るようにして、お知らせする。講演の内容については</p>

<p>(議 長)</p>	<p>今の段階では「生活支援等サービスの体制整備について」、その後にグループワークをしたいと考えています。研修会日程は講師と調整し早めに連絡したいと考えています。</p> <p>皆さんそれでよろしいですか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>了承されたということにします。</p> <p>それでは、これで終わります。皆さん、活発なご意見いただきありがとうございます。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>ご意見いただきありがとうございます。次回の会議に開催については、研修会が終わった頃として、来年の2月くらいに予定させていただきます。次回の会議では、事業の中間報告と、平成30年度の事業計画を議題としてご意見を頂きたい。開催時間は今日のような18時半くらいでよければそれで進めていきます。</p> <p>以上を持ちまして、平成29年度第1回さぬき市在宅医療・介護連携推進協議会の会議を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>